

単元名 (書写)行書を深めよう

配当時間 2時間

単元の目標 (1) 行書の特徴について理解を深め、筆使いに気を付けて書くことができる。
(3) 行書で学習したことを、日常生活に生かそうとする。

標準的な展開例

12210118_001

【教材名】「創造」 (P. 88～P. 89)

【準備等】DVD-ROM, 毛筆のための練習用紙, 筆記用具(鉛筆, ボールペン, サインペン, 色鉛筆等)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 行書の特徴について, 第2学年までに学習した内容を振り返る。 ○ 「創造」を硬筆で試し書きをして, 本時の学習課題をつかむ。 <p>★点画の変化と連続や, 次の文字への筆脈を理解して書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 示範や教科書の「考えよう」(p. 89)を参照し, 点画の形や方向の変化, 次の文字への筆脈を考え, 自己課題を設定する。 ○ 「創造」を, 毛筆で練習用紙や半紙に練習して, 批正する。 ○ 毛筆でまとめ書きをする。 <p>2 点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して硬筆で書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループで前時の作品を鑑賞し合い, 行書の特徴, 半紙への配列などを確認し, 相互評価する。 ○ グループによる話し合いの結果をまとめ, 発表する。 ○ 本時の学習課題をつかむ。 <p>★点画の変化と連続, 次の文字への筆脈を理解して硬筆で書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 硬筆を練習する。 ○ 筆記用具を選択して書く。 <p>○ 教科書(p. 89)を使いまとめ書きをし, 振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本単元では, 第1時に毛筆, 第2時に硬筆という展開で計画してあるが, これまで同様2時間を使って, 毛筆と硬筆両方に取り組む展開も考えられる。 ・ 行書の特徴である点画の変化と連続を意識して学習することを強調し, 本時が毛筆による行書のまとめであることを知らせる。 ・ 教科書(p. 89)に, 楷書と行書の違いを意識させながら硬筆で取り混ぜることによって, 学習課題への意欲を高める。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 水書板等を用い示範して, より具体的につかませたい筆使いは, 以下のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> ①点画の変化と連続を理解して書く。 「へん」と「つくり」の空間の取り方「しんによろ」の字形の組み立て方 ②次の文字への筆脈を理解して書く。 「りつとう」の変化, 形の変化 ③配列 行の中心, 余白の取り方, 学年と氏名記入 ・ 点画の連続に注目するよう促しながら, 運筆の理解のためDVD-ROM等を参照する。 <p>【評】点画の変化と連続を理解して書く活動を通して, 「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒が鑑賞する観点として, 全体のまとめ方点画の変化と連続, 字形の組み立て方, 行の中心・余白, 名前の書き方などを提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「生かそう」(p. 89)を使い, 次の画への連続や, 次の文字への筆脈を意識して書かせる。 ・ 様々な筆記用具を事前に準備するよう指示をしておく。例として, 鉛筆, ボールペン, サインペン, 色鉛筆等が考えられる。筆記用具について考える活動から, 行書のもつ特性やよさに気付かせたい。 <p>【評】用具を選択しながら, 点画の変化と連続を理解して書く活動を通して, 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行書学習のまとめをする。

【 備 考 】

これまでに学習した行書の特徴を意識して書き, 学習グループで発表し合うことによって, 自分の文字について考えさせたい。また, 硬筆で書くことに活用できるようにすることで, より日常的な書写力として行書の定着を図るようにしていく。また, 身の回りの多様な文字に関心をもたせ, 用具や書体を選択して適切に書き表すことを学び, 表現効果を考える力を養っていききたい。

第2学年までに学習した行書の技法を, 日常の書写活動に進んで生かしていくようにさせる。また, 相互評価や互いの作品を鑑賞することを学習活動の中に取り入れていけるとよい。

補助教材集 行書「有終完美」 教科書 (p. 143)